

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成 25 年 12 月 26 日 (2013.12.26)

【公開番号】特開 2012-128689 (P2012-128689A)

【公開日】平成 24 年 7 月 5 日 (2012.7.5)

【年通号数】公開・登録公報 2012-026

【出願番号】特願 2010-279856 (P2010-279856)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/12 (2006.01)

B 4 1 J 29/38 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 F 3/12 C

B 4 1 J 29/38 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 11 月 13 日 (2013.11.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 6 】

次に、図 3 ( b )、図 3 ( c )、図 4 ( a ) 及び図 4 ( b ) を用いて、各後処理装置の構成について説明する。図 3 ( b ) は、大容量スタッカ 2 0 0 - 3 a の構成を示す拡大断面図である。大容量スタッカ 2 0 0 - 3 a は、シートの搬送路として、エスケープパスと、ストレートパス、スタックパスを備える。また、大容量スタッカ 2 0 0 - 3 a は、大容量スタッカにセット可能な台車を備える。この台車には、伸縮可能なステイを介してスタッカトレイが設けられている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 7 】

印刷装置 1 0 0 によって印刷されたシートに対して大量積載処理を実行する場合、制御部 2 0 5 は、印刷装置 1 0 0 によって印刷されたシートをスタックパスを通してスタッカトレイに排紙させる。このとき、制御部 2 0 5 は、スタッカトレイに排紙されたシートが排紙されるのに伴い、スタッカトレイに積載されたシートの上面が、スタックパスの排紙口の高さにくるように、伸縮可能なステイを縮める。それによって、スタックパスから排紙されたシートをスタッカトレイに積載させることができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 4 】

なお、中綴じ製本 2 0 0 - 3 c がトリマを持たない場合には、サドルステッチャ部で製本されたシート束は、ブックレットトレイから取り出すことができる。また、中綴じ製本 2 0 0 - 3 c は、図 4 ( b ) のインサートトレイにセットされたシートを印刷装置 1 0 0

から搬送されるシートに必要な応じて添付する。さらに、この中綴じ製本 200 - 3 c は、上流の装置から搬送されたシートを処理するだけではなく、インサートトレイから給紙されたシートに対して、ステイブル処理、断裁処理、パンチ処理、Z 折り処理、シフト排紙処理、中綴じ製本処理等を行うことができる。例えば、予め印刷されたシート等をインサートトレイにセットして、当該シートに対して中綴じ製本処理を実行することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

また、例えば、大量積載処理キー 709 が選択された状態で、OK キー 711 が押され、スタートキー 5003 によってジョブの実行開始指示を受けた場合、制御部 205 は、次のように制御する。制御部 205 は、スキャナ部 201 により原稿の画像データを読み取り、印刷装置 100 によって当該画像データを印刷する。そして、制御部 205 は、印刷装置 100 によって印刷されたシートを大容量スタッカ 200 - 3 a に搬送し、大容量スタッカ 200 - 3 a のスタッカトレイに排紙させる。それによって、ユーザは、原稿の画像データが印刷され、スタッカトレイに積載されたシートを大量に積載させ、台車で容易に運搬することができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0102

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0102】

ステップ S3402 において、ステップ S3401 の「部数指定」の UI 画面（図 19（b））または（図 21（b））で設定した部数が規定数以上（例えば、2 以上）であるか否かを判定する。規定数以上である場合には、ステップ S3404 の「枚数指定モード」に進む。例えば、「部数指定」の UI 画面（図 19（b））で 10 部設定した場合に、S3404 に進む。なお、ステップ S3404 の「枚数指定モード」の詳細については、図 17 のフローチャートを用いて説明する。逆に、規定数を下回る場合には、ステップ S3403 の「使いきりモード」に進む。例えば、「部数指定」の UI 画面（図 21（b））で一部設定した場合に、S3403 に進む。ステップ S3403 の「使いきりモード」についての詳細は、図 16 のフローチャートを用いて説明する。ステップ S3405 において、当該処理のオフライン処理 3 を終了する。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0114

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0114】

ステップ S2704 において、当該オフライン処理で印刷物（中綴じ製本）の本文の枚数を設定する。そこで、ユーザが「オフライン処理 3」の UI 画面（図 21（a））の中から「一部当たりの枚数指定」を選択し、「一部当たりの枚数指定」のボタンを押すと、「枚数指定」の UI 画面（図 21（c））が表示される。「枚数指定」の UI 画面（図 21（c））で一部当たりの枚数を指定する。本実施形態では、20 枚を指定するものとする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 1 2 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 2 8 】

ステップ S 2 6 0 5 において、ステップ S 2 6 0 2 で設定した給紙段からオフライン処理で使う用紙を給紙する。本実施形態では、「中綴じ製本処理（本文設定）」の UI 画面（図 1 4（a））で設定した給紙段は「インサータ」である。そこで、オフライン用の用紙を、図 4（b）の中綴じ製本機 2 0 0 - 3 c の上部に装着されている「インサータ」から中綴じ製本機 2 0 0 - 3 c に給紙する。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 3 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 3 3 】

ステップ S 2 7 0 3 において、当該オフライン処理 4 で印刷物（中綴じ製本）を何部作成するかを設定する。そこで、「オフライン処理 4」の UI 画面（図 2 3（a））の中から「部数指定」を選択し、「部数指定」のボタンを押すと、「部数指定（枚数指定モード）」の UI 画面（図 2 1（b））が表示される。「部数指定（枚数指定モード）」の UI 画面（図 2 1（b））で部数を設定する。本実施形態では、10 部に設定するものとする。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 4 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 4 3 】

ステップ S 4 1 0 3 において、ステップ S 4 1 0 2 の「用紙設定」の UI 画面（図 2 5（a））で用紙情報が設定されたか否かをチェックする。当条件設定ではメディア情報の有無に応じて、「使いきりモード」と「枚数指定モード」の切り替えを行うものとする。これはメディアによっては、後処理を行うことができない場合があるからである。「用紙設定」の UI 画面（図 2 5（a））で用紙情報の設定がされなかった場合には、ステップ S 4 1 0 4 の「使いきりモード」に進む。ステップ S 4 1 0 4 の「使いきりモード」についての詳細は、図 1 6 のフローチャートを用いて説明する。逆に、「用紙設定」の UI 画面（図 2 5（a））で用紙情報の設定がされた場合には、ステップ S 4 1 0 5 の「枚数指定モード」に進む。なお、ステップ S 4 1 0 5 の「枚数指定モード」の詳細については、図 1 7 のフローチャートを用いて説明する。ステップ S 4 1 0 6 において、当該処理の「オフライン処理 5」を終了する。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 5 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 5 1 】

ステップ S 2 7 0 2 において、「オフライン処理モード 5」の UI 画面（図 2 5（a））には「後処理設定」と「部数指定」と「一部当たりの枚数指定」と「用紙設定」のボタンが表示されている。この中から「オフライン処理モード 5」の UI 画面（図 2 5（a））の中にある「後処理設定」ボタンを押すと、「後処理設定」の UI 画面（図 1 0（a））に切り替わる。「後処理設定」の UI 画面（図 1 0（a））には複数種類の後処理が表示されている。「後処理設定」の UI 画面（図 1 0（a））に表示されている複数種類の

後処理の中から「中綴じ製本処理」を選択し、「中綴じ製本処理」ボタンを押すと、「中綴じ製本処理」のUI画面(図13(b))に切り替わる。「中綴じ製本処理」のUI画面(図13(b))の中には「本文設定」と「表紙設定」を選択するためのボタンが表示されている。まず、「中綴じ製本処理」のUI画面(図13(b))の中から「本文設定」を選択し、「本文設定」ボタンを押すと、「中綴じ製本処理(本文設定)」のUI画面(図14(a))に切り替わる。「中綴じ製本処理(本文設定)」のUI画面(図14(a))では、オフライン印刷用の用紙を給紙するための給紙段の設定を行う。本実施形態では、図24のフローチャートのS4102において、既に用紙情報の設定を行っているため、既に用紙の情報はセットされているものとする。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0153

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0153】

ステップS2704において、当該オフライン処理で印刷物(中綴じ製本)の本文の枚数を設定する。そこで、「オフライン処理5」のUI画面(図25(a))の中から「一部当たりの枚数指定」を選択し、「一部当たりの枚数指定」のボタンを押すと、「枚数指定」のUI画面(図23(b))が表示される。「枚数指定」のUI画面(図23(b))で一部当たりの枚数を設定する。本実施形態では、20枚を設定するものとする。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0162

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0162】

ステップS4503において、「用紙設定」のUI画面(図25(b))を介して受け付けた用紙設定に基づいて、後処理に制限のない特定メディアが設定されたか否かを判定する。これは、メディアの種類によっては、後処理が制限される場合があるためである。「用紙設定」のUI画面(図25(c))で予め決められていない用紙情報(非特定メディア)が設定されたなら、ステップS4504の「使いきりモード」に進む。ステップS4504の「使いきりモード」についての詳細は、図16のフローチャートを用いて説明する。逆に、「用紙設定」のUI画面(図25(c))で用紙情報(特定メディア)の設定がされた場合には、ステップS4505の「枚数指定モード」に進む。なお、ステップS4505の「枚数指定モード」の詳細については、図17のフローチャートを用いて説明する。ステップS4506において、当該処理の「オフライン処理6」を終了する。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0183

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0183】

「後処理設定」のUI画面(図10(a))で予め決められていない種類(第2種類)の後処理が指定されたなら、ステップS4704の「使いきりモード」に進む。第2種類の後処理とは、例えば、印刷物の一部当たりの後処理の許容枚数が少ないような後処理が該当する。ステップS4704の「使いきりモード」についての詳細は、図16のフローチャートを用いて説明する。逆に、「後処理設定」のUI画面(図10(a))で特定の後処理が設定された場合には、ステップS4705の「枚数指定モード」に進む。なお、ステップS4705の「枚数指定モード」の詳細については、図17のフローチャートを用いて説明する。ステップS4706において、当該処理のオフライン処理7を終了する。

。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 9 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 9 8】

ステップ S 2 7 1 0 において、ステップ S 2 7 0 5 で設定した情報を、図 2 の制御部 2 0 5 に基づいて、R A M 2 0 8 に格納された当該ジョブの管理情報を更新する。ステップ S 2 7 1 1 において、当該処理の「枚数指定モード」を終了する。

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 0 3】

ステップ S 4 9 0 3 において、ステップ S 4 9 0 2 の「用紙設定」の U I 画面（図 3 1（b））を介して受け付けた給紙段設定に基づいて、設定された給紙段が後処理が可能である特定の給紙段であるか否かを判定する。つまり、設定された給紙段が、第 2 の後処理を実行する後処理装置に印刷済みメディアを供給可能な特定の供給源（第 2 の供給源）であるか否かを判定する。なぜならば、インサータによっては、特定の後処理にしか使えなかったり、1 つの給紙段しか備えていなかったり、複数の給紙段を備えていたり、製品によって様々であるためである。よって、予め指定したインサータによって、後処理の処理方法を決めておくことができる。「用紙設定」の U I 画面（図 3 1（b））で予め決められていない給紙段の情報（供給源指定情報）が設定されたなら、ステップ S 4 9 0 4 の「使いきりモード」に進む。つまり、設定された給紙段が、第 1 の後処理を実行する後処理装置に印刷済みメディアを供給可能な供給源（第 1 の供給源）が設定された場合に S 4 9 0 4 に進む。ステップ S 4 9 0 4 の「使いきりモード」についての詳細は、図 1 6 のフローチャートを用いて説明する。逆に、「用紙設定」の U I 画面（図 3 1（b））で予め決められた給紙段情報の設定がされた場合には、ステップ S 4 9 0 5 の「枚数指定モード」に進む。なお、ステップ S 4 9 0 5 の「枚数指定モード」の詳細については、図 1 7 のフローチャートを用いて説明する。ステップ S 4 9 0 6 において、当該処理のオフライン処理 8 を終了する。